



## レバノン：イスラーム過激派諸派の活動

12月5日、レバノン北部で活動しているイスラーム過激派武装勢力の幹部アブー・アリー・シーシャーニーことアナス・サルキスがインターネット上に動画を発表、2日に逮捕されたことが明らかになった自分の妻らを釈放しなければ、レバノン軍の要員の妻子を誘拐すると脅迫した。レバノンでは、8月以降ベカーア高原などを中心にイスラーム過激派の活動が活発化し、レバノン兵や治安要員への攻撃や誘拐事件が多発している。特に、8月2日にはレバノン兵が多数誘拐される事件が発生し、「イスラーム国」や「ヌスラ戦線」がヒズブツラーのシリアからの撤退やレバノンやシリアで収監されている囚人の釈放を要求している。この事件については、カタールやトルコが仲介して兵士らの解放交渉が行われているが、交渉は進展しておらず、既に複数のレバノン兵が処刑されている。

### 評価

レバノンでは、2日にシーシャーニーの妻のほか、「イスラーム国」首長のアブー・バクル・バグダーディーの妻子とされる人物が逮捕されていたことが明らかになっている。こうしたできごとは、イスラーム過激派とその関係者がイラク、シリア、レバノンを中心に容易に越境移動を繰り返している実態を反映しているといえよう。また、レバノンの状況は、イスラーム過激派諸派の相互関係が場所や状況によって多様であり、大局的には敵対関係にある「イスラーム国」と「ヌスラ戦線」が共闘するような状態が見られる。一方、6日付の『シャルク・ル・アウサト』紙によると、シーシャーニーの集団は「イスラーム国」、「ヌスラ戦線」と共に8月2日の攻撃に参加していたが、同人の集団は「イスラーム国」、「ヌスラ戦線」から独立して活動していた。なお、シーシャーニーは今般の動画で、「アブー・バクル・バグダーディーの兵士」と自称したが、この動画自体は「イスラーム国」や「ヌスラ戦線」の広報経路を通じて発信されたものではない。

レバノンでイスラーム過激派の活動が活発化したことは、レバノン・シリアの国境地域のシリア側でシリア政府軍の掃討の結果イスラーム過激派が地歩を失ったことと関係している。イスラーム過激派がレバノンの軍・治安部隊への攻撃を繰り返すようになったことは、シリアやイラクで活動するイスラーム過激派の兵站拠点と化しているその他の隣接国にとっても他山の石とすべき事例といえる。また、レバノン国内ではイスラーム過激派の活動活発化を受け、レバノン人の間でシリアからの難民への反感が強まっており、難民の受入れや待遇に悪影響が出始めている点にも注目すべきであろう。

(イスラーム過激派モニター班)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799